

平成 26 年度 国立赤城青少年交流の家 教育事業
あかぎ多文化共生推進事業
報告書

趣 旨

群馬県に住んでいる在日外国人の多くは、言葉の壁などが原因で、地域社会にとけ込めない。自己肯定感が育みづらい傾向にある。

また、今後の日本における外国人数は、増加する見込みであることから、社会は、日本人と外国人が共生できる方法（多文化共生可能な地域づくりに繋がる方法）が必要である

そこで、国立赤城青少年交流の家では、自然体験活動を用いて、多文化共生可能な地域づくりに繋がる方法を探すことにしました。

そのために、今年度は、次の3つをねらいとした3回のキャンプを実施しました。

- 1 在日外国人が自己肯定感を育むこと
- 2 他国の文化や人を知り、自分以外の価値観を認める考えを持つこと
- 3 在日外国人が、自分や他の（地域含む）に気づくこと

第 1 回

| | |
|------|--|
| タイトル | あかぎでワールドパーティしよう |
| 日時 | 平成26年8月19日(火)～20日(水) 1泊2日 |
| 主要会場 | 国立赤城青少年交流の家 |
| 参加者 | コレジオピタゴラス(ブラジル人学校) 21名 釜山アジア共同体学校(韓国にある多国籍学校) 11名 計32名 |
| スタッフ | 特定非営利活動法人多言語教育研究所 1名 釜山アジア共同体学校日本事務局 2名 国立赤城青少年交流の家職員 2名 国立赤城青少年交流の家法人ボランティア 1名 計6名 |
| 概要 | 赤城山のふもとで、ブラジル人と韓国人が集った。言葉は通じないが、あかぎアドベンチャープログラムやそれぞれの食べ物・ダンスや歌などの文化を通してコミュニケーションを図り、交流を深めた。 |

活動日程

| 8月19日 | 8月20日 |
|---|------------------------|
| 11:00 はじめの会 | 6:30 起床 |
| 12:00 昼食 | 7:10 朝のつどい |
| 13:30 あかぎアドベンチャープログラム | 7:30 朝食 |
| 17:00 ワールドパーティ(各国の食とダンスや歌などの文化を通じた交流活動) | 10:00 赤城山トレッキング(地藏岳登山) |
| 21:00 入浴 | 12:00 昼食 |
| 23:00 消灯 | 14:00 おわりの会・解散 |

活動の様子



達成感があった地蔵岳登山の山頂で記念



ワールドパーティの様子。ブラジルはシュハスコ。韓国はチヂミなどの手作り料理が並び。おいしく楽しみました



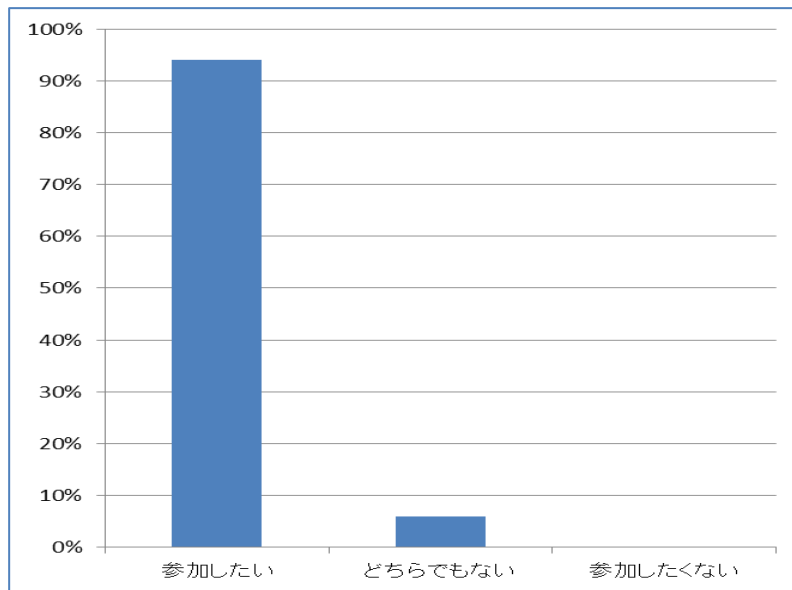
言葉は通じなくとも分かり合える仲になりました



あかぎアドベンチャープログラムの様子
ジェスチャーを使って課題に挑戦しました

参加者の声（アンケートより抜粋）

今後もキャンプへ参加したいですか。



感想

- ・ 他国の人と文化をお互いの文化を紹介しあうのがおもしろかった。
- ・ 韓国の方と遊ぶとすごく楽しかった。
- ・ これから知らない人と通じ合えることに興味をもった。
- ・ 他国の人と遊べて発見があり，同じ国の人と話せて安心した。
- ・ 違う国の人といっぱい友達をつくりたい。
- ・ 次キャンプへ行ったら，もっと友達をつくって色々な国の食べ物を食べてみたい。
- ・ アドベンチャープログラムの手法を活かしたい。
- ・ みんなを想う気持ちをもてた。
- ・ 積極的になれた。
- ・ 自然に親しむ生き方を学べた。
- ・ 日本語をもっと学びたい。
- ・ ブラジルの学生は自分たちと違ってどこか成熟していると感じた。1泊2日，共に過ごしながら愉快であった。
- ・ 他国の人と交流する機会を得てよかった。
- ・ 多くの発見があり，見識が広がった。

第2回

| | |
|------|---|
| タイトル | あかぎの自然で友達と仲良くなろう |
| 日時 | 平成26年9月6日(土)～7日(日) 1泊2日 |
| 主要会場 | 国立赤城青少年交流の家 |
| 参加者 | 太田市立宝泉小学校 13名 太田市立九合小学校 14名 計27名 |
| スタッフ | 群馬大学多文化共生教育・研究プロジェクト推進室 7名 国立赤城青少年交流の家職員 2名 国立赤城青少年交流の家法人ボランティア 1名 計10名 |
| 概要 | 他国の文化や人を知り、自分以外の価値観を認める考えを持つことを主なねらいとして、群馬大学多文化共生教育・研究プロジェクト推進室と連携して行い、太田市にある公立小学校に通う在日外国人の児童に対して、自然体験活動を提供した。なお、児童の保護者が数名参加している。 |

活動日程

| 9月6日 | 9月7日 |
|--|--|
| 11:00 はじめの会 | 6:30 起床 |
| 12:00 昼食 | 7:10 朝のつどい |
| 13:30 あかぎであそぼう(グループでの課題解決ゲームと、自然に触れるあそびを織り交ぜた活動) | 7:30 朝食 |
| 17:00 タペのつどい | 9:00 エチオピアアドベンチャー(群馬大学多文化共生教育・研究プロジェクト推進室提供の活動。エチオピアから帰国した学生の体験をもとに、エチオピアを探るクイズ活動) |
| 18:30 キャンプファイヤー | 12:00 昼食 |
| 20:00 入浴・消灯 | 13:00 おわりの会 |
| | 13:30 赤城山大沼散策・解散 |

活動の様子



「キャンプは楽しい」「おいしい」という声が多く飛び交った昼食時の様子



協力して課題にチャレンジしたあかぎであそぼうの様子

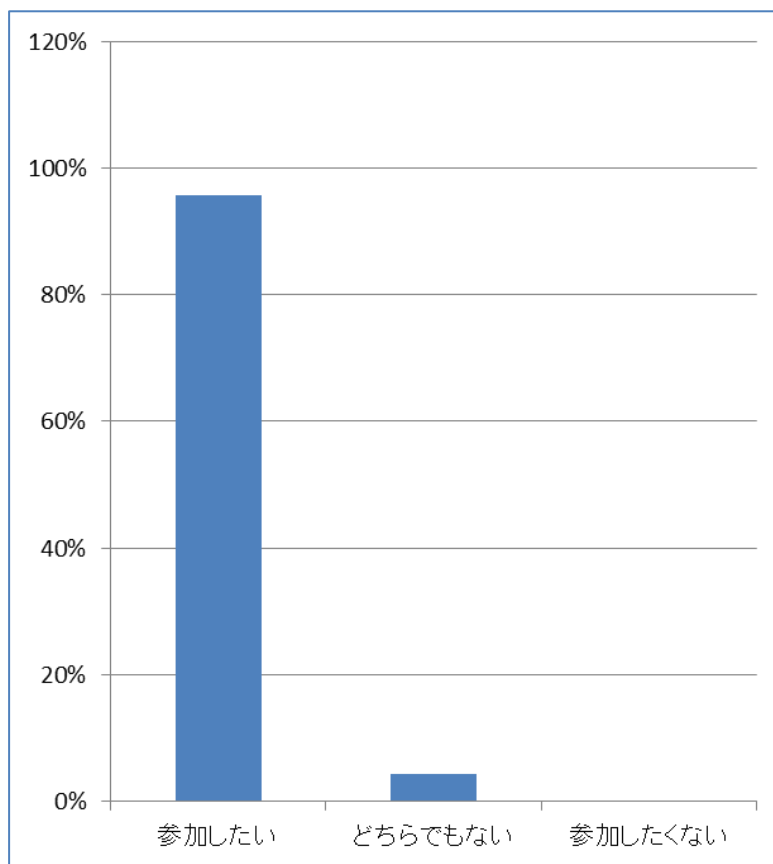


山の上にある湖にみんなびっくり。
大沼で記念撮影



キャンプを頑張った全員に修了書を授与

参加者の声（アンケートより抜粋）
今後もキャンプへ参加したいですか。



感想

- ・ 普段、自信がない子もイキイキしてた。
- ・ 同じ仲間とたくさん話せた。
- ・ これから友達をいっぱい作りたい。
- ・ テレビなんかいらなかった。
- ・ 仲間を大切にすることを学んだ。
- ・ やさしさとリーダーシップを活かしたい。
- ・ 早ね早おきをがんばりたい。
- ・ 学校でも、そとであそぶ。
- ・ 初対面の人でも仲良くしようとする。
- ・ 達成感を味わえた。思いっきり遊べた。
- ・ ルールを守ったり、順番を守ったり、同時に色んなことが学べた。親として、わが子の成長を見れてうれしい。
- ・ 健康的で教育的なあそびであった。今後も継続して欲しい。
- ・ 年間に数回あると嬉しい。

第3回

| | |
|------|---|
| タイトル | 赤城山の山頂でおもいきり遊ぼう |
| 日時 | 平成26年10月10日(金)～12日(日) 1泊2日 |
| 主要会場 | 前橋市赤城少年自然の家 |
| 参加者 | ジェンチムーダ(ブラジル人学校) 27名 |
| スタッフ | 前橋市赤城少年自然の家 1名 特定非営利活動法人多言語教育研究所 1名 国立赤城青少年交流の家職員 2名 国立赤城青少年交流の家法人ボランティア1名 計5名 |
| 概要 | 前橋市赤城少年自然の家と連携して、大泉町にあるブラジル人学校に通う生徒に対して、赤城山ハイキングやカッターなど赤城山ならではの自然体験活動を提供した。 |

活動日程

| 10月10日 | 10月11日 | 10月12日 |
|--------------------------|-----------------|----------------|
| 9:00 はじめの会 | 6:30 起床 | 6:30 起床 |
| 9:30 あかぎアドベンチャー プログラム | 7:00 朝食 | 7:00 朝食 |
| 12:30 昼食 | 9:00 赤城山トレッキング | 9:00 カッター体験 |
| 13:00 移動 | 12:00 昼食 | 12:00 昼食 |
| 14:00 周辺散策 | 13:30 スポーツ | 13:00 おわりの会・解散 |
| 17:00 シュハスコパーティ | 17:00 夕食 | |
| 20:00 入浴・消灯 | 19:00 キャンプファイヤー | |
| | 20:00 入浴・消灯 | |

活動の様子



シュハスコを食べると笑顔があふれます



歓声があがったカッター体験の様子



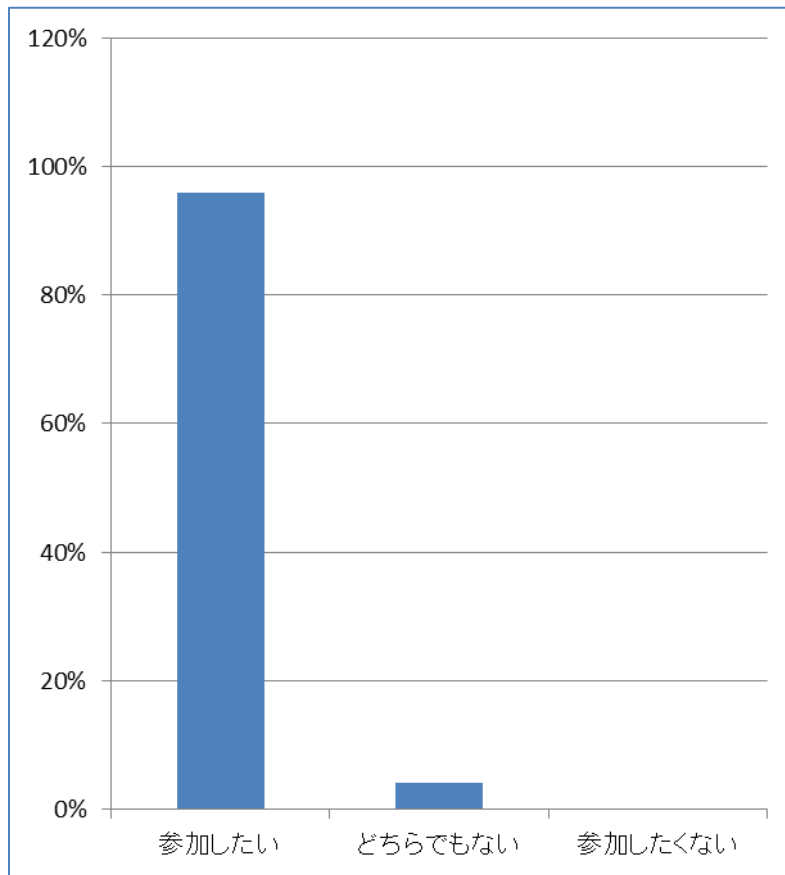
前橋市赤城少年自然の家とスタッフへ
お礼とお別れの挨拶



最終日の朝。丁寧に掃除をしていました

参加者の声（アンケートより抜粋）

今後もキャンプへ参加したいですか。



感想

- ・ これからの生活に活かしたいと思った。
- ・ グループごとに挑戦したあかぎアドベンチャープログラムが楽しかった。
- ・ 自然の中での空気がおいしかった。
- ・ 自由な時間が多くてよかった。
- ・ 自然が好きになった。
- ・ 友達と一緒にいれたことが嬉しい。
- ・ 協力する大切さを学んだ。
- ・ 一人ではできないことを学んだ。
- ・ ネット環境がなくても幸せな生活を送れた。

成果

- 1 多くの参加者は「キャンプへ行くと安心できる」「他国の人と交流するのは楽しい」という感想をもったことから、「心と体を解放できる」「新しく出会う人と交流できる」キャンプを実施することができた。
- 2 事業後に、自信をもった参加者が地域行事（前橋まつり）へ参加する（神輿を担ぐ）ことができ、キャンプ後に地域へ溶け込むきっかけとなった。
- 3 本事業に関わったスタッフの有志が集まり、在日外国人を対象に自然体験活動を提供する団体「AKAGI WORLD COMMUNITY（略称 AWC）」が発足した。今後、AWC と一緒に事業を進めることで、当施設の職員が異動や退職等をしてでも継続できるようになると考えられる。

- 4 様々な団体と連携できたこと。

「群馬大学多文化共生教育・研究プロジェクト推進室」

群馬県における多文化共生を研究・推進・実践している団体です。連携したことで、多文化共生に必要な対象者理解や、日本人の在り方などのノウハウ（研究内容）を用いて、事業運営することができました。

「釜山アジア共同体学校日本事務局」

韓国で多文化共生の実践を行っている釜山アジア共同体学校の日本事務局です。連携したことで、韓国の学校を日本に招くことができ、ブラジル人と韓国人を交流することができました。

「前橋市赤城少年自然の家」

林間学校の学校行事、青少年団体の野外活動（実習）で利用できる前橋市が設立した赤城大沼湖畔に立つ研修施設です。連携したことで、公立施設で本事業が実施できる可能性を見つけることができました。

課題

- 1 外国人学校側が、事業日の変更を提案することが多いことから、年度初めに、外国人学校と入念な打ち合わせを行い、活動計画をきちんと立てる必要があること。
- 2 「多文化共生」実現のためには、日本人本位ではなく、在日外国人の目線に立って、少しずつ社会に溶け込む仕組みをつくる必要があること。

- 3 在日外国人の体験の間口を、より広げる必要があることから、外国人学校の林間学校を支援すること。(個人での申し込みは今のところできない)
日本人の子どもが参加していないことから、日本人も含めた、キャンプの機会をつくる必要があること。

以上